令和3年度
人生100年時代における結婚・仕事・収入に関する調査
報告書のポイント

令和4年3月
株式会社マーケティング・コミュニケーションズ

【調査概要】

1. 調査目的

コロナ下で改めて顕在化した男女共同参画の遅れの要因の一端として、家族形態の変容、社会構造が変化しているにもかかわらず、働き方、税・社会保障制度等の制度・慣行が依然として昭和の働き方・制度・慣行となっており、現在の結婚や家族の実相と合っていないことや、無意識の偏見（アンコンシャス・バイアス）を含む固定的な性別役割分担意識等に基づく構造的な問題が存在することなどが指摘されている。

本調査は、前述の問題意識を念頭に、結婚・仕事・収入に関して、意識調査等を行い、男女差、年代差、学歴差、地域差を確認した上で、男女間賃金格差の要因の一端や、働き方・制度・慣行が現在の結婚や家族の実相に合っているのかどうか等を明らかにし、人生100年時代における働き方・制度を検討する際の資料となることを目的とする。

2. 調査検討委員会

・本調査の実施にあたっては、有識者からなる検討委員会を設置し、開催した。

氏名	所属
＜主査＞ 山田 昌弘	中央大学 文学部 教授
永瀬 伸子	お茶の水女子大学基幹研究院 教授
小林 盾	成蹊大学 文学部 教授

3. 調査方法・手順

調査方法	・インターネット・モニターに対するアンケート調査 （株式会社マーケティング・アプリケーションズの登録モニターが対象）
調査名	あなた自身に関する調査
調査期間	令和3年12月27日（月）～令和4年1月11日（火）

4. 調査対象

調査対象	国内在住のインターネット・モニター（20歳以上70歳未満）
回収数	20,000人
サンプルの割付	「令和2年国勢調査における「配偶者の有無×男女年代」とエリア（東日本・西日本の2区分）に基づき回収。ただし、特に協力率が低いと考えられる性年代については、割付を一定数下回る場合も許容することとした。

◆結婚意思・理想の子供数について

1 独身者(結婚経験なし)の「**結婚意思あり**」割合は、**20代では女性65%、男性54%、30代では男女ともに46%**。その後、**50代では女性13%、男性27%**と差が開く。

2 離婚・死別経験がある独身者の「**結婚意思あり(再婚意思)**」割合は、**女性では未婚者と比べて全体的に低い**。一方、**男性は未婚者と比べて同程度かやや高くなっている**。

3 子供がいない独身者の「**理想の子供数**」は、「**0人**」と「**2人**」に分かれる傾向。20代女性では「0人」24%/「**2人**」**40%**、30代女性では「**0人**」**43%**/「2人」24%。

- 独身者(結婚経験がない人)の今後の結婚意思については、20～30代では46～65%と男女ともに高い。40代になると男女とも32%～36%まで下がる。50代以降で男女差が大きくなり、女性50代13%に対して、男性50代では27%と倍以上。女性60代では8%、男性60代では22%と3倍近い。
- 離婚・死別経験がある独身者については、結婚経験がない独身者に比べて、女性では全年代で結婚意思(再婚意思)が下回る。一方男性では、どの年代でも結婚経験がない独身者に対して、ほぼ同じ割合～やや高くなっており、男性の方が再婚意思が高いことが窺える。
- 子供がいない独身者の「理想の子供の数」については、「0人(子供がいらない)」は女性20代で24%、女性30代で43%。男性20代で31%、男性30代で38%。「1人以上(子供が欲しい)」とした回答の中では「2人」とした割合が最も高く、女性20代で40%、女性30代で24%、男性20代で32%、男性30代で27%。

・独身者の今後の結婚願望 ※40%以上オレンジ、20%以上黄色掛け

対象者区分		今後「結婚意思あり」 女性	今後「結婚意思あり」 男性
結婚経験なし	20代	64.6%	54.4%
	30代	46.4%	46.4%
	40代	31.7%	36.0%
	50代	13.0%	26.6%
	60代	7.9%	22.0%
結婚経験あり	20代	45.0%	66.7%
	30代	36.6%	54.3%
	40代	23.3%	39.1%
	50代	11.0%	29.0%
	60代	2.6%	23.7%

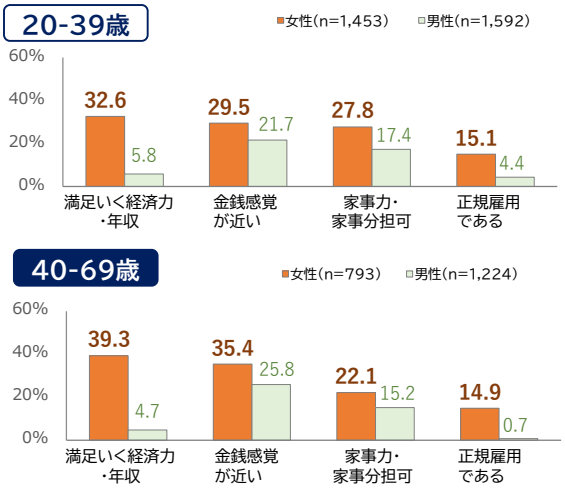
◆結婚したい理由・したくない理由

1 結婚相手に求めることは、「**一緒にいて落ち着ける・楽しい**」「**近い価値観**」が高い。また女性は、「**満足いく経済力**」「**正規雇用**」「**家事力**」「**金銭感覚**」をより男性に求める。

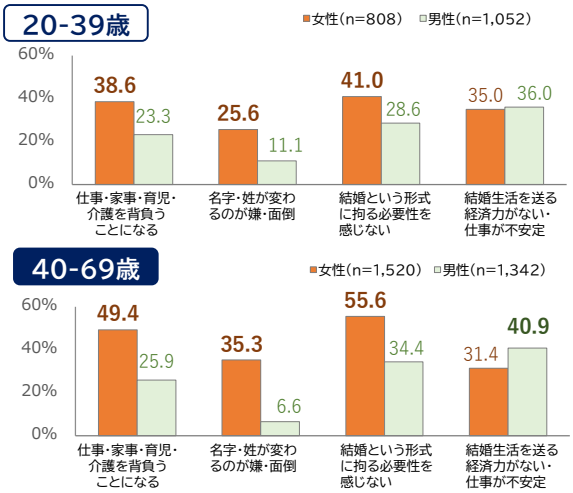
2 結婚した理由・したい理由は、「**好きな人と一緒に生活したいから**」が高い。加えて**20-39歳女性**は、男性に比べ「**家族、子供を持ちたいから**」も高い。

3 結婚したくない理由で**男女差**が大きいものは、「**仕事・家事・育児・介護を背負うことになる**」「**名字が変わる**」は**女性**が、「**経済力がない**」は**40歳以上の男性**で高い。

＜独身者が結婚相手に求める要素＞※男女差がある選択肢を抜粋



＜結婚したくない理由＞※男女差がある選択肢を抜粋



◆ターニングポイントの年齢

1 理想の結婚年齢は、「**妻26歳／夫28歳**」。
理想の第一子を持つ年齢は、2年後の「**妻28歳/夫30歳**」。

2 最初の結婚年齢(現実)は、「**妻27歳／夫29歳**」、第一子を持った年齢は、「**妻28歳/夫31歳**」。二回目の結婚年齢は、「**女性36歳／男性37歳**」。

3 この年齢まで働きたいと思う理想は、「**女性54歳／男性62歳**」。配偶者にこの年齢まで働いて欲しいと思う理想は、「**妻には55歳まで**」「**夫には65歳まで**」働いて欲しい。

	理想の年齢		現実の年齢	
	女性	男性	女性	男性
最初に結婚する年齢	26.1歳	28.0歳	26.6歳	28.9歳
最初の結婚時の配偶者の年齢	28.3歳	26.2歳		
第一子を持つ年齢	27.8歳	29.9歳	28.0歳	30.7歳
二回目に結婚した時の年齢			35.7歳	36.6歳
自分が「この年齢までは働きたい」と思う年齢	53.8歳	62.0歳		
配偶者に「この年齢までは働いて欲しい」と思う年齢	64.9歳	55.3歳		

◆離婚を取り巻く状況

1 **既婚者の過去離婚経験率**は、男女ともに全年代で**1割未満**。
既婚者の今後「離婚する可能性あり」とした割合は、**男女とも15%程度**。

2 「離婚可能性」が高い年代は、**男女とも40代で2割前後**。60代では1割未満。
女性は30代までは、「**非正規雇用→主婦→正規雇用**」の順で離婚可能性が高い。

3 男女とも20-30代の若い層では、「大学・大学院卒」と「高卒・中卒」で比較すると、
「高卒・中卒」で離婚可能性が高い傾向があった。

・既婚者の今後の離婚可能性

対象者区分	今後「離婚可能性あり」	
	女性	男性
全年代	15.4%	14.9%
20代	16.6%	15.9%
30代	17.8%	16.4%
40代	20.5%	19.3%
50代	15.9%	15.5%
60代	7.4%	8.7%

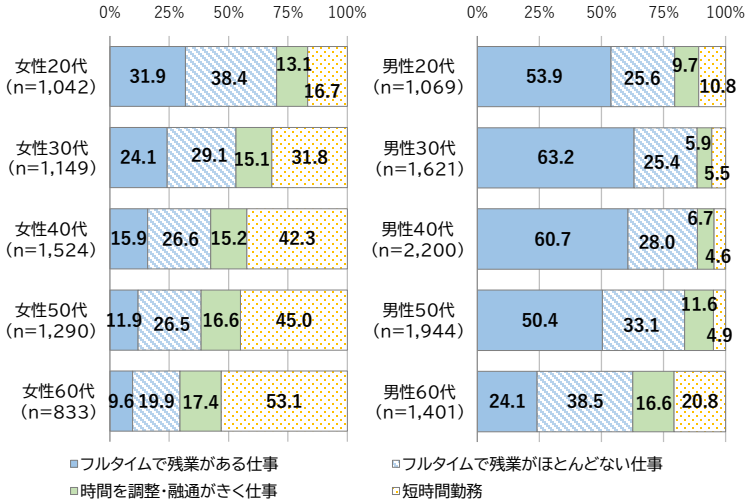
- 既婚者が「過去に離婚したことがある」割合は、どの年代でも4～9%程度。一方、今後離婚する可能性ありとした割合は、女性全体で15.4%、男性14.9%で同程度。年代別に見ると、女性40代で20.5%、男性40代で19.3%と最も高く、その後女性50代で15.9%、男性15.5%とやや下がり、女性60代で7.4%、男性60代でも8.7%と、男女とも60代になると1割未満に下がる。
- 離婚する可能性について、雇用形態別に見てみると、20代の女性については、非正規雇用23.7%／無職(主婦含む)15.1%／正規雇用12.5%、30代女性については非正規雇用20.7%／無職(主婦含む)18.1%／正規雇用15.1%と、「非正規雇用」が最も離婚意向が高く、その次に無職(主婦含む)、その次に正規雇用となった。
- 学歴別に離婚する可能性を見てみると、男女ともに20～30代は、大学・大学院卒では15%以下であるのに対し、高校・中学校卒では2割前後と、高校・中学校卒の方が離婚可能性が高い傾向が見られた。

◆現職の状況

1 女性は20代で「正規雇用」の割合が最も高く、以降は減少。「非正規雇用」の割合は「40代」で最も高い。一方で男性は30-50代で「正規雇用」が7～8割、「非正規雇用」は約1割。

2 正規雇用比率に比例して、男性では「フルタイム（残業有）」が50代以下で5割超も、女性では年齢が上がるほど「短時間勤務」の割合が上昇。また「フルタイム（残業有）」比率も低い。

	正規雇用	非正規雇用
女性20代(n=1,532)	42.0%	23.8%
女性30代(n=1,811)	31.1%	28.3%
女性40代(n=2,392)	21.7%	37.5%
女性50代(n=2,204)	16.4%	35.9%
女性60代(n=2,140)	8.2%	25.0%
男性20代(n=1,546)	51.1%	13.8%
男性30代(n=1,810)	72.4%	11.0%
男性40代(n=2,389)	75.3%	8.7%
男性50代(n=2,159)	69.3%	9.0%
男性60代(n=2,017)	30.3%	25.1%

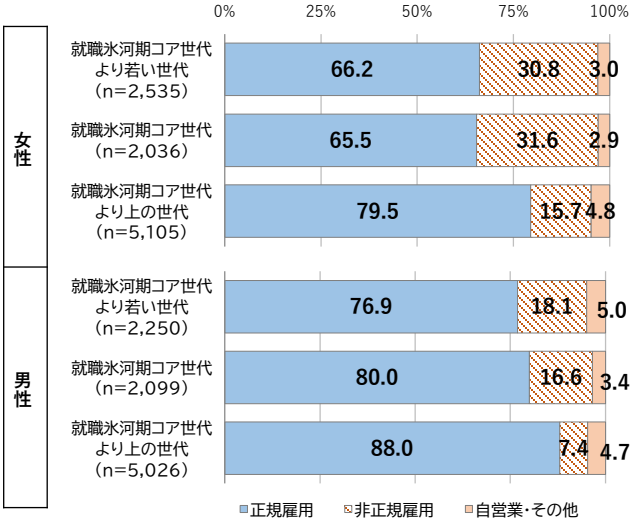


◆就職氷河期コア世代について、初職をめぐる状況

1 最終学歴後についた初職は、「就職氷河期コア世代より上の世代」で「正規雇用」の割合が最も高い。「就職氷河期コア世代」以降は、「女性」7割弱、「男性」8割弱で同程度。

2 初職の企業規模は、男女ともに「氷河期より上の世代」で「1,000名以上」の企業が多く、それ以降の世代では「100名以下」の割合が高まる。

3 初職の勤続年数が「3年以下」の割合は、「コア世代女性」で44%（上の世代38%）、「コア世代男性」で28%（上の世代21%）と、コア世代の方が3年以下離職率が高い。



		企業規模	
		100名未満	1,000名以上
女性	若い世代(n=2,459)	37.3%	17.1%
	コア世代(n=1,976)	40.1%	13.6%
	上の世代(n=4,859)	32.2%	24.9%
男性	若い世代(n=2,138)	32.0%	23.4%
	コア世代(n=2,028)	33.9%	23.3%
	上の世代(n=4,791)	27.6%	31.8%

◆就職氷河期コア世代の初職の希望度・働いての魅力度

1 就職前に感じていた「仕事への希望度（希望通りだったか）」は**男女ともに「コア世代」で低く**、女性35%、男性33%。他世代では男女ともに4割前後。

2 初職が希望通りでなかった点は、男女ともに**「給料」「勤務形態・時間」「会社の雰囲気」**が高いのは共通も、**「給料」については、男性でより「希望通りではない」**値が高い。

3 「コア世代より若い世代」では、**初職が非正規雇用であっても「希望通り」とする割合が「コア世代」と比べ高く、「非正規＝消極的な選択」と捉えていない人もいる**と推測。

初職が非正規雇用		就職前希望通りだったか（希望通り計）	働いてみて魅力的だったか（魅力的計）
女性	若い世代(n=782)	29.3%	22.8%
	コア世代(n=643)	23.3%	22.1%
男性	若い世代(n=407)	26.5%	23.3%
	コア世代(n=348)	16.4%	14.1%

- 初職が非正規雇用の人を見ると、「コア世代」については、「就職前希望通りだったか」の値は「若い世代」と比べて女性では6%ポイント程度低く、男性では10%ポイント低いことから、「希望通りでなく、非正規雇用にならざるを得なかった」人が一定数いると考えられる。
- 反対に、「若い世代」では、職業の幅も広がる現状の中、「非正規雇用も選択肢の1つ」と前向きに捉えている人が含まれていると推測される。

◆初職の満足度

1 男女ともに「雇用形態」「通勤のしやすさ」の満足度が高いのは共通。**女性に比べ男性は、「勤務時間が長くない・残業がそこまでない」「勤務地・転勤有無」**の満足度が低い。

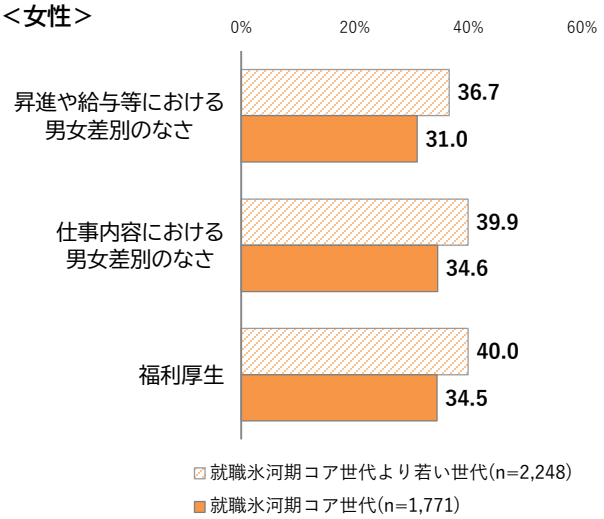
2 「就職氷河期コア世代」は男女とも、**他世代と比べ各要素に対する満足度は低い。**「コア世代より若い世代」と比較すると、**女性では「昇進や給与等における男女差別のなさ」「仕事内容における男女差別のなさ」**の満足度が低い。

- 初職で働いてみての満足度は、「勤務時間の長さ」「勤務地・転勤の有無」など、「働き方」の点で男女の差が見られ、男性でより満足度が低い。コア世代より若い世代では、給与や仕事面での「女性」ならではの差別はやや改善の傾向が見られた。

【働いてみての満足度】

	女性（n=8,626）	男性（n=8,410）
雇用形態	60.2%	55.0%
仕事内容	49.3%	44.3%
人間関係	46.9%	43.0%
勤務時間が長くない・残業がそこまで多くない	41.3%	30.7%
勤務地・転勤の有無	47.5%	37.1%
会社規模	48.2%	41.7%
会社・勤め先の安定性	48.6%	41.3%

＜女性＞



◆結婚・子供を持つ事と働き方における、「理想」と「現実」のギャップ

1 結婚後、また第一子が生まれた後の段階でも、既婚者の「理想」よりも、「現実」で増えているのは**「夫はフルタイム、妻は家事に専念(働かない)」**。

2 逆に、「理想」に対して「現実」の値が下回っている≒そうしたいと思っていたが、思っていたより出来なかったものは、**「夫婦ともに原則フルタイム」**。

3 **「夫婦ともにフルタイム」**を望んでいるのは、既婚者では女性よりも**男性**で多い。一方、**家事や育児に専念**することを望んでいるのは、**女性**で多い(特に第一子出産後)。

・結婚後の自分と配偶者の仕事について　理想と現実 (選択肢抜粋)

対象者区分			夫婦ともに原則フルタイム		夫はフルタイム妻は家事に専念(働かない)	
			理想	現実	理想	現実
既婚	20-39歳	女性	46.9%	40.7%	8.5%	17.3%
		男性	52.5%	43.0%	5.2%	11.0%
	40-69歳	女性	39.2%	32.8%	19.5%	25.7%
		男性	40.6%	32.1%	16.0%	22.1%
独身	20-39歳	女性	37.4%		6.6%	
		男性	29.8%		3.4%	
	40-69歳	女性	28.5%		13.6%	
		男性	24.4%		7.7%	

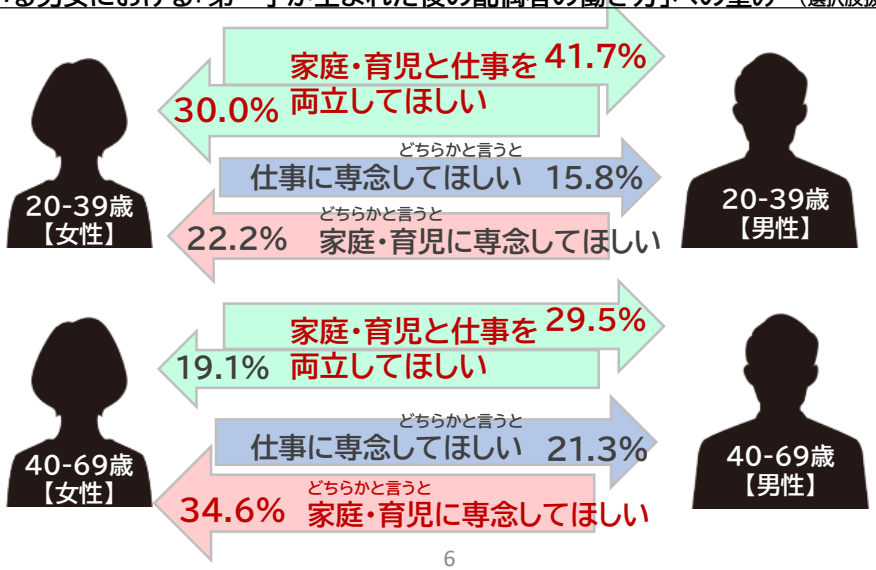
◆結婚・子供を持った段階での、配偶者への働き方の要望

1 女性の若い年代(20-39歳)では、結婚後、また第一子が生まれた後も、**夫**に対しては**「家庭・育児と仕事を両立してほしい」要望が最も高い**。

2 女性の上の年代(40-69歳)では、**夫**に対して、**「家庭・育児と仕事を両立してほしい」要望**と、**「どちらかと言うと仕事に専念してほしい」要望**、どちらも一定数ある。

3 男性では、特に第一子が生まれた後は、妻に対して**「どちらかと言うと家庭・育児に専念してほしい」要望**が高く、**上の年代(40-69歳)では最も高い要望**となる。

・子供がいる男女における「第一子が生まれた後の配偶者の働き方」への望み (選択肢抜粋)



◆個人年収について

1 既婚女性は、20-30代では3割前後が、40-50代では35%前後が、60代では45%が**「100万円未満」。収入がない層も、20-50代では2割前後。**

2 既婚女性と独身女性を比較すると、全年代で**「100万円未満」が既婚女性の方で高く、**30代以上では倍以上違う。また、**個人年収の男女差は、特に既婚者で大きい。**

3 配偶者との年収の違いについて、**女性は男性に「もっと高い方が望ましい」、男性は女性に「(扶養等も考えて)今のまま～下がってもいい」**という意識が高い。

- 既婚女性の個人年収については、年収がある人のボリュームゾーンは全年代で「100万円未満」。20代で25.5%、30代で31.4%、40代で34.7%、50代で36.7%、60代で44.8%。「収入がない」割合は、20代で16.6%、30代で18.4%、40代で17.9%、50代で21.5%、60代で11.8%と、50代で最も高い。
- 独身女性の個人年収について、既婚女性のボリュームゾーンである「100万円未満」の割合は、全年代で2割未満、「収入がない」割合も全年代で1割未満と、既婚女性と差が大きい。また、個人年収における男女差については、独身よりも既婚者でかなりの開きが見られた。
- 既婚者における配偶者との年収の違いへの考え方について、男女別・年代別の傾向は、男性では4割以上、女性では3割前後が「気にしていない」としたものの、女性では男性に対して「相手の年収はもっと高い方が望ましい」と4割前後が考えており、特に20-39歳女性でその傾向が見られた。一方、男性においては、「相手の年収は今のまま～下がってもいい」「相手が扶養を受けることを考えると、相手の年収は今のまま～下がってもいい」がそれぞれ1割程度おり、男女における考え方の違いを裏付ける結果となった。一方、女性においては「相手の年収との関係で、家事・育児等は出来るだけ自分がやらなければならないとと思う」もやや高い傾向。

◆結婚・子供を持つ事と働き方における、「理想」と「現実」のギャップ

1 結婚後・第一子誕生後ともに、既婚20-39歳女性の「理想」よりも「現実」で増えるのは、**「収入が下回っても家庭に時間がとれる」「配偶者控除が受けられるぐらいの収入」。**

2 逆に、「理想」に対して「現実」の値が下回っている≒そうしたいと思っていたが、思っていたより出来なかったものは、女性では**「結婚前、第一子誕生前と同様の収入」。**

3 結婚・第一子誕生前に、**「その前よりも上回る収入」**を望む割合は男性の方が高く、特に**40代以上の男性**で高い。

・第一子が生まれた後の自分の収入　理想と現実 (選択肢抜粋)

対象者区分			理想				現実			
			第一子が生まれる前と同様の収入	第一子が生まれる前を上回る収入	第一子が生まれる前を下回っても育児の為にある程度時間を使えるぐらいの収入	配偶者控除や企業の配偶者手当を受けられるぐらいの収入	第一子が生まれる前と同様の収入	第一子が生まれる前を上回る収入	第一子が生まれる前を下回っても育児の為にある程度時間を使えるぐらいの収入	配偶者控除や企業の配偶者手当を受けられるぐらいの収入
既婚	20-39歳	女性	48.2%	20.0%	15.1%	5.1%	29.4%	12.5%	27.5%	11.5%
		男性	49.7%	35.7%	6.7%	1.6%	49.3%	26.5%	11.1%	4.1%
	40-69歳	女性	49.8%	17.7%	14.0%	6.6%	34.4%	10.7%	18.5%	15.7%
		男性	44.3%	39.1%	5.4%	3.2%	51.9%	24.5%	6.3%	5.4%

◆70歳になった時の生活スタイル

1 仕事について「理想」「現実どうなりそうか」ともにどの年代でも男性で「働いている」割合が高い。
世帯収入の「現実どうなりそうか」では、どの年代でも男性の方が金額が高い。

2 居住形態の理想では、女性は男性よりも「配偶者と二人で暮らしている」割合が高く、男性は女性よりも「配偶者と子供と暮らしている」割合が高い。特に若い年代で大きく差が出ている。

3 仕事、居住形態、収入、住まいについて、70歳時に「実際どうなりそうか（現実）」は「わからない」とする割合が、54歳以下では3～4割いる。
中でも最も「わからない」割合が高いのは、「70歳時の世帯収入」。

- 70歳になった時の仕事の状況については、「理想」では女性は「働いていない」が最も高い（20-39歳で37.2%、40-54歳で41.5%、55-69歳で53.7%）。男性は20-39歳、40-54歳で「フルタイムで働いている」がそれぞれ39.5%、33.2%と最も高く、55-69歳では「働いていない」が41.8%と最も高い。どの年代でも男性の方が「働いている」が高い傾向にある。「現実どうなりそうか」では、「わからない」の割合が男女ともに20-39歳、40-54歳では3割弱、55-69歳では2割弱いるが、「理想」と同様に男性の方が「働いている」の割合が高い。
- 世帯収入の「理想」では、男女ともどの年代でも「月30万円以上」が最も高く（5割弱～6割弱）、次に「月20万円以上」となる（3割前後）。「現実どうなりそうか」では、どの年代でも女性に比べて男性の方が金額が高い傾向にあり、女性の方が「わからない・考えられない」の割合が高い。
- 居住形態については、「理想」では全ての年代において女性の方が「配偶者と二人で暮らしている」の割合が高く、特に20-39歳で差が大きい（女性44.9%、男性33.1%）。一方、「配偶者と子供と暮らしている」の割合は男性の方が高い。
- 住まいについては、「理想」では若い年代（20-39歳）の男女で「今とは別の持ち家に住んでいる」が最も高く（3～4割）、上の年代（40-54歳、55-69歳）で「今住んでいる持ち家に住み続けている」が最も高くなっており（5割弱～6割強）、性別よりも年代による差が大きい。
- 仕事・居住形態・収入・住まいについての「70歳時の現実予想（実際どうなりそうか）」は、70歳までまだ遠い20-39歳、また40-54歳でも「わからない」とする割合が3～4割と多く、現実問題として考えられていないとも推測される。中でも最も「わからない」が高い（どうなるか予測できない）ものは、「70歳時の収入」だった。

◆介護の状況について

1 今後の親の介護へのかかわり方は、女性の全ての年代で「自分が中心的に介護すると思う・している」が男性に比べやや高い。一方「わからない」はより男性で高い。

2 自身が要介護になった時の望みでは、女性では全年代で「自宅ではなく施設に入りたい」が3割以上。一方「わからない」はより男性で高い。

・今後の自分の親の介護へのかかわり方

対象者区分		自分が中心的に介護すると思う・している	わからない・考えられない
20-39歳	女性	14.6%	44.3%
	男性	12.2%	51.4%
40-54歳	女性	20.2%	36.7%
	男性	13.2%	46.9%
55-69歳	女性	22.1%	33.7%
	男性	12.1%	41.9%

※30%以上に黄色色掛け

・自身が要介護になった時の望み

対象者区分		自宅ではなく施設に入りたい	わからない・考えられない
20-39歳	女性	31.0%	47.7%
	男性	23.5%	53.6%
40-54歳	女性	36.3%	42.1%
	男性	25.8%	52.0%
55-69歳	女性	36.4%	36.2%
	男性	33.0%	42.5%

※30%以上に黄色色掛け

◆現在、将来の不安と満足度

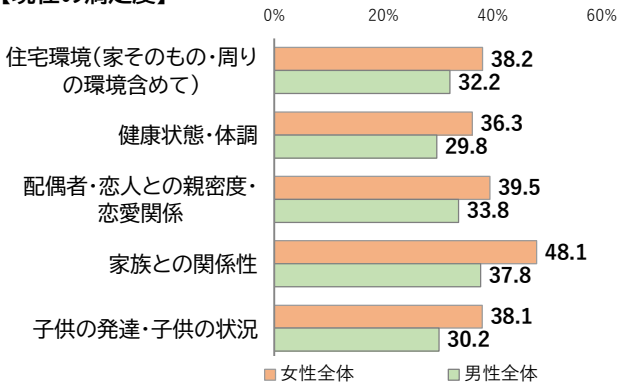
1 「現在」、「将来」ともに女性で「不安」が高く、特に「現在」は、「子供の育児に掛る費用や教育費負担が大変」「生活がぎりぎりで、貯金ができない」と金銭面で男性より不安が高い。

2 将来の不安は、男女ともに「40-54歳」で不安とする項目が多い。特に女性で顕著であり、「高齢になって十分な介護が受けられるか」「年金受給が出来るか」など。

3 現在の満足度は、男女ともに「家族との関係性」が最も高い。全体として上の年代で満足度は高い傾向にあり、男性は「40-54歳」、女性は「20-39歳」で満足度が低い。

		女性全体	男性全体
現在不安	生活がぎりぎりで貯金ができない	30.8%	28.1%
	家族の中に居場所がない	7.9%	10.3%
将来不安	高齢になって十分な生活ができない	32.6%	25.5%
	高齢になっても年金受給が不透明	34.9%	27.5%
	高齢になっても働かないといけない	30.5%	26.2%
	高齢になって身体が不自由になり誰かの介助が必要になる	33.4%	26.2%

【現在の満足度】



◆ジェンダー・家制度に対する考え方

1 女性では、長男・長子・長男の嫁など「家制度」に対する反対割合が高い。男性では「法律婚すべき」「自然な恋愛結婚が望ましい」等で反対の割合が女性に比べ低い。

2 男女別・年代別では、「年代の若い女性」→「上の年代の女性」→「若い男性」→「上の年代の男性」の順に、「反対」の割合が高い。

- 「女性」では特に「長男がお墓を守るべき」や「長子や長男の嫁に対する役割」に対する反対割合が高く、「家」に対する考え方＝既存の家制度に納得できない・反対する考えが男性に比べ大きいと推測される。
- 一方で、男性は女性と比べ、法律婚や子供を持つ事、夫婦で同姓であることへの「賛成」の割合が高い（反対も少ない）。「法律婚して子供がいることで一人前」という既存の考え方に沿うことが、「社会的に自分がどう見られるか」ということに繋がると意識しており、それがこの結果に繋がっているとも推測される。

		女性(n=10,079)		男性(n=9,921)	
		賛成	反対	賛成	反対
収入	男性にある程度収入がないと結婚すべきではない	40.4%	14.2%	33.5%	15.6%
結婚・子供	事実婚や同棲よりも結婚（法律婚）するべきである	25.7%	19.9%	27.6%	14.7%
	お見合いや婚活サイト等よりも自然な恋愛結婚が望ましい	25.2%	16.6%	28.2%	12.4%
	男女とも結婚（法律婚）して一人前と認めるべきである	16.9%	33.9%	20.6%	24.1%
	男女とも子供を持って一人前と認めるべきである	12.6%	41.5%	16.9%	28.0%
	結婚したら夫婦で同じ名字・姓を名乗るべきである	20.9%	27.0%	26.0%	17.1%
家制度	長男がお墓を守るべきである	8.9%	43.9%	15.1%	26.9%
	長子が家を継ぐ・家を守るべきである	8.5%	45.0%	14.6%	26.6%
	長男の嫁は、長男の嫁としての役割を果たすべきである	9.5%	47.3%	14.8%	27.3%